

ジャンボ渡辺の学 富士山の学

2月23日は「富士山の日」。「富士山の恵みに感謝し、保護と適正な利用を図ろう」と、5年前の県条例で定められました。県内では、写真展、映画祭、花火大会、雪祭りなど、記念行事が多彩です。

私は、多くの小中学生が富士山の現場に出かけ、NPOによるゴミ拾いや植林活動、エコツアー、構成資産巡り、地質や動植物専門家の研修などを体験し、「富士山学習」の日にすべきだと考えています。

ニュージーランドの取り組みを紹介します。自然と文化両面で世界遺産に登録されているトンガリロ国立公園について、具体的な環境保護や登山教育が行われています。オークランド市内の小学校では年に数回、児童が登山用の携

2月23日は富士山の日

トイレ・ゴミ問題…保全学ぶ日に



渡辺豊博さん

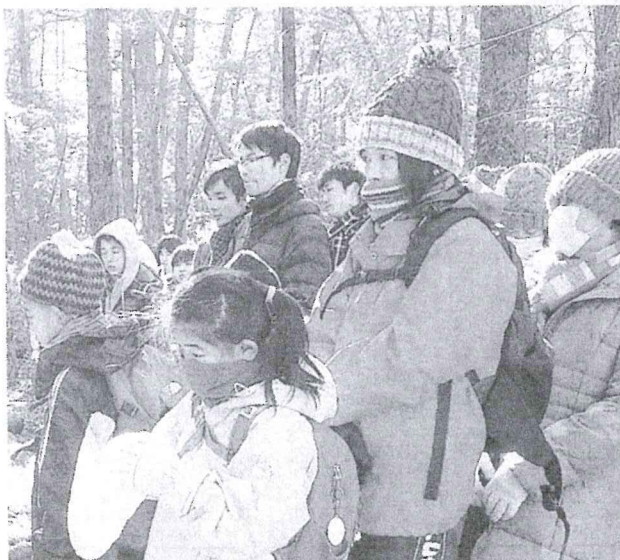
帯トイレを身につけて登校します。立ったまま用便を済ませ、紙おむつみたいなものです。最初は多くの児童が「気持ち悪い」と訴えるそうです。



忍野八海で、ホトケドジョウ繁殖池を観察する子どもたち＝2015年1月、忍野村、筆者提供

校内の便所は当日、使用禁止。児童は、仕方なく携帯トイレで用を足し、何回も新しいものにはきかえる作業を繰り返します。使い方と処理方法を学びます。

同時に、し尿を自然環境に垂れ流すとどんな悪影響を与えるかを、授業で知ります。「携帯トイレの使用は登山者の義務と責任」と、理解する



青木ヶ原樹海を散策するツアー参加者たち＝2015年1月、富士河口湖町、筆者提供

ことで、児童は携帯トイレ着用への抵抗感が小さくなった、と先生から聞きました。他にも、児童は靴の裏についた外来植物の種が森に侵入し、固有の生態系を壊してしまうことも学びます。靴裏の洗浄に気を配るようになるそうです。

私は児童に、富士山の現状を説明しました。夏山シーズに多数の登山者が集中し、山小屋などのトイレで、し尿処理に多額のお金がかかっていること。山麓にごみが不法投棄されていること、などです。児童から「どうして日本人は携帯トイレを使わないの？」「ごみをどうして山に捨てるの？」と質問が相次ぎました。先進国の日本で、世界文化遺産の富士山が汚されている現実が信じられない様子でした。

私は、主宰しているNPO法人「グラウンドワーク三島」の活動で、青木ヶ原樹海ツアーや、忍野八海で希少魚類の観察会を開いています。冬も、子どもたちに富士山の自然を体験してもらっています。

富士山の日も、そんな環境保全について学べる日にしたいらいいのでは、と思います。

（わたなべ・とよひろ
都留文科大教授）